

何をしてもいい。何もしなくてもいい。 きみは、きみのままでいい。

いまを生きるすべての子どもと、かつて子どもだった大人に贈る、 生きる力を育む“じかん”

「ゆめパ」は子どもたちみんなの遊び場。約1万㎡の広大な敷地には、子どもたちの「やってみたい」がたくさん詰まっています。手作りの遊具で思いっきり遊ぶ子どもたち。一緒にどろんこになっている親子。小さな子どもを連れた自主保育のグループ。ゆめパにはいつも子どもと子どもに関わる大人が集っています。

ゆめパの一角には「フリースペースえん」があり、学校に行っていない子どもたちが自分の「好き」をあたためています。安心して、ありのままの自分で過ごせる場所で、虫や鳥を観察したり、木工細工に熱中したり、ゴロゴロ休息したり。でも、時には学校や勉強のことが気になる子ども…。新しい春を前に、一人の子が自身の将来を考え始め――。

家庭でもない、学校でもない、第3の子どもの居場所を公設民営で運営している先進的なモデルとして、全国の自治体から注目を集めるゆめパの日々を3年にわたり撮影したのは、『さとにきたらええやん』の重江良樹監督。遊ぶこと、学ぶこと、休息すること、人と共にあること。その輝きも揺らぎも、子どもたちのかけがえのない“じかん”はきっと大人たちにも大切なものを思い起こさせてくれることでしょう。

子どもも大人もみんなが作り手となって生み出される「居場所の力」と、時に悩みながらも、自ら考え歩もうとする「子どもの力」を描き出したドキュメンタリー。



子どもは“好き”を見つけ、“自分らしさ”を表現する 才能があると改めて感じました。

『ゆめパのじかん』では、その才能を最大限に発揮し、大人にはない行動力を爆発させている、子どもたちの輝く瞬間をリアルに映し出しています。周りと同じである必要なんてなく、自分らしさを持つことが大切だということを子どもたちが教えてくれました。年齢問わず、多くの方にこの作品を観ていただきたいです。

――中川翔子（歌手／タレント）

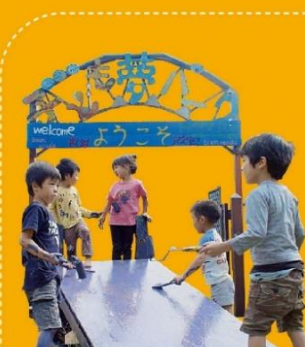
「子どもは自分で考えて決断することができない庇護すべきか弱いイキモノである。だから、我々オトナは彼らを守り、教え、“正しい道”に導かなければならない」。『ゆめパのじかん』を観た後はそんな思い込みがきつと一掃されてしまうだろう。

無気力で勉強嫌いと思われがちな
不登校児のイメージも変わるかもしれない。

――深爪（エッセイスト）

未来はひとりひとりの 手作りの希望からしか生まれない。

――谷川俊太郎（詩人）



「川崎市子ども夢パーク」とは

神奈川県川崎市高津区にある子どものための遊び場。2000年に制定された「川崎市子どもの権利に関する条例」をもとに市民参画で作られた。工場跡地を利用した約1万㎡の広大な敷地にはプレーパークエリア、音楽スタジオや創作スペース、ゴロゴロ過ごせる部屋のほか、学校に行っていない子どもたちのための「フリースペースえん」が開設されている。乳幼児から高校生くらいまで、幅広い年齢の子どもが利用している。

yumepark.net

お問い合わせ・お申込み：FAX(082-815-1530)または E-mail:konetkabe@ybb.ne.jp

お申し込みの際には下記の項目を明記してください

- ① 参加者氏名・年齢（全員）
- ② 連絡先
- ③ 参加希望上映会（①10:30～ ②13:30～）
- ④ 参加費合計

お申し込み後3日以内に返信の無い場合はお手数ですが再度ご連絡ください



こちらからもお申し込みできます